



令和4年度 第3号

令和4年7月1日

西おきたま 雪若丸だより

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト置賜地域本部 西置賜農業技術普及課

今年のおいしい「雪若丸」づくりのポイントは

- 1 葉色を低下させないことが大事！**
- 2 遅れず&生育診断に基づく“食味重視”の穂肥！**

1 生育状況（西置賜農業技術普及課生育診断圃）

管内の雪若丸ほ場の生育は、移植日や管理によってほ場のバラツキが大きい状況です。茎数が不足しているほ場では、引き続き浅水管理で茎数の確保が最優先です。

出穂期は「平年よりやや早まる」見込みです。穂肥は遅れずに行い、生育過剰な場合は施肥量を減らす等、“食味重視”の穂肥でおいしい「雪若丸」づくりに努めましょう。

()内は指標比・差

6月30日現在		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
雪若丸	飯豊町	50.6 (123)	751 (127)	10.4 (+1.1)	48.7 (+5.7)
	指標	41.0	590	9.3	43.0

2 直ちに中干し・作溝を行いましょう！

- 中干しは田面に小ヒビが入る程度を基本とします。
- 生育量が多い場合や、葉色が濃い場合は →やや強め
- 生育量が少ない場合や、葉色がさめかかっている場合は →弱め
- 作溝を行うことにより、出穂期～登熟期まで効率的な水管理ができます。

3 「雪若丸」の生育診断について（9.5葉、6月30日頃）

【前提条件】

- 中干しを行い、土壤環境を整え、上根を張らせ、穂肥のできる状態までイネを仕上げる。
- 幼穂形成期まで葉色（SPAD値）を40未満に低下させない。
「はえぬき」より、生育量が多くても中干しの強度を上げすぎない。
※「雪若丸」の葉色は「はえぬき」より、全般に濃く推移する。
偏穂数型でm²茎数は「はえぬき」より、多くなる。
- 目標収量 600kg/10a、検査等級 1等、玄米粗タンパク含有率 7.5%以下（乾物換算）とする。

予想出穂期 8/3 → 穂肥時期の目安（出穂25日前） 7/9頃

【 生育診断のポイント 】

○目標とする食味・収量・品質を確保するための生育指標（9.5 葉時）

莖数 750 本/m²（坪当たり 70 株植え：35 本/株）以下

葉色 4.4（SPAD 値）以下

※m²籾数を 30,000 粒程度とし、登熟を高めて、食味、品質を向上！

○穂肥は出穂 25 日前、窒素成分で 1.5kg/10a を基本とする。

生育診断結果により、次のように対応する

生育量	莖数	葉色 (SPAD)	追肥対応 (8月3日出穂の場合)
生育不足	560 本/m ² 未満	40 未満	早めの穂肥 出穂 30 日～26 日前 (7月4日～8日頃) N成分 1.5kg/10a
適 正	560～750 本/m ²	40～44	出穂 25 日前 (7月9日頃) N成分 1.5kg/10a
生育過剰	750 本/m ² 以上	44 以上	出穂 25 日前 (7月9日頃) 葉色の低下を確認し、減肥対応 N成分 1.0～1.2kg/10a

4 いもち病・斑点米カメムシ類の対策は万全に！

○いもち病の感染に好適な気象条件が発生しており、葉いもちの蔓延に注意が必要です。圃場をよく見回り、**早期発見、早期防除**を徹底しましょう。

○イネ科雑草が繁茂している畦畔・農道等の草刈りを地域ぐるみで徹底し、斑点米カメムシ類の生息密度低減に努めましょう。また、水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草は斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を促します。**水田内の残草処理を徹底**しましょう。（※除草剤の使用の際は使用基準を遵守）

斑点米カメムシ類「やや多い」！

今すぐ草刈りを行い、斑点米カメムシ類の密度を減らしましょう！



アヒゲホミドリカスカメ



アヒゲカスカメ

農作業事故・熱中症に注意！

◎「もうちょっと…」という無理が重大事故につながります。

◎暑い日が続きます。熱中症予防のために水分補給と休息をしっかりと取りましょう！

山形県農薬危害防止運動実施中！～農薬を使用する際は使用基準を再確認！その都度記帳！～